

教育目標

自主
他敬 自愛
創造

内野中だより

内野中ブログ
QRコード



新潟市立内野中学校だより 令和6年10月3日(木)発行 第6号 新潟市西区内野西1-10-1 電話 025-262-3161
生徒数 1年生289名 2年生255名 3年生255名 計799名(10月2日現在)

パリ五輪フェンシング男子エペ団体銀メダリスト 古俣 聖選手をお招きして

9月9日(月)に臨時の全校朝会が開かれ、パリ五輪のフェンシング男子エペ団体で銀メダルを獲得した当校卒業生の古俣聖選手をお招きし、快挙を祝う横断幕をお渡ししました。貴重な時間の様子を、写真と併せて紹介します。

当日は多くの生徒が古俣選手の登場を心待ちにし、体育館は期待と緊張感に包まれていました。朝会が始まると、生徒会副会長のYさんが生徒会旗を持って古俣選手を誘導し、拍手が広がる中、首から銀メダルをかけた古俣選手が堂々と入場しました。懐かしい母校に古俣選手の表情は柔らかく、終始リラックスした様子でした。



生徒会長のKさんが祝福の言葉を述べると、古俣選手も感慨深そうに頷きながら、「皆さんの応援のおかげで、銀メダルを取ることができた」と、声援を受け止めていました。



続いて生徒会代表のKさんが、「同じ中学校で学んだ先輩が、輝かしい成績を残したことを誇りに思います。」とあいさつし、古俣フェンシング道場用のミニ横断幕を贈呈しました。

笑顔で横断幕を受け取った古俣選手は、「母校でこんなに温かく盛大に迎えていただき、うれしい」と、感謝の気持ちを込めたお礼の言葉を述べられました。



質問コーナーでは、全国大会で活躍した陸上部3年生のKさんが「大切な試合前はどのようにして集中力を高めているのですか？」と質問しました。

古俣選手は、「緊張するのは当たり前なので、普段の行動を気を付けるようにしています」と、競技に向き合う真摯な姿勢を語り、生徒たちは熱心に聞き入っていました。



最後に、生徒会代表のYさんから花束が贈呈されました。

身近な先輩が世界で活躍する姿に勇気をもらい、学校全体が一体感を感じる温かい時間となりました。なお、横断幕は学校にも掲示されています。学校にお越しの際は是非ご覧ください。



内野中学校 2012年度(平成24年度)卒業生
パリオリンピック2024 フェンシング男子団体エペ

祝 銀メダル 古俣 聖 選手





全校生徒と古候選手で記念撮影を行いました

広島平和記念式典等派遣事業感想文集より

新潟市主催の派遣事業に応募して、記念式典に参加してきた生徒の感想を紹介します。



原爆の恐ろしさ

内野中学校 3年 T

僕は中学校生活最後の夏休みに広島平和記念式典等派遣事業に参加し、たくさんのことを学びました。その中でも特に印象に残っていることが3つあります。

1つ目は、被爆者の体験談です。3歳の時に被爆された方、母のお腹にいる時に被爆された方の話を聞きました。一瞬にして大切な人を亡くした核兵器を世界から無くさなければならないと仰っていました。二度と戦争を起こさず、私達と同じ目に遭わせたくないという気持ちが、話を聞いていてひしひしと感じられました。そして、被爆者当時は幼かった方達も年を重ね、今は高齢者となりました。年々、僕達のように戦争を知らない世代が増えていく中で、僕は戦争の悲惨さを後世に伝えていきたいと思いました。

2つ目は、平和記念公園に行ったことです。僕が心に残っているものは「平和の灯」です。核兵器が世界からなくなったときに消火されるその火は、東京オリンピックがあった1964年から60年経った今も、灯され続けています。この火が消えることを僕は願っています。次に「原爆の子の像」です。被爆者の一人である佐々木禎子さんは、小学6年生のときに白血病だとわかりました。今まで元気だった禎子さんは落ち込みました。そして禎子さんは闘病中にたくさんの鶴を折りましたが、病気は治らず亡くなってしまいました。その後禎子さんの親友達が寄付をつのり、そのお金で「原爆で亡くなった全ての子供のために慰霊碑を作ろう」と呼びかけ、1958年に原爆の子の像が建てられました。禎子さんが療養中辛かったにも関わらず、願いが叶うと信じて鶴を折り続けたこともすごいなと思いました。原爆の子の像として形に残した親友達も素敵だなと感じました。

3つ目は、広島平和記念式典に参列したことです。僕はテレビや新聞などで見たことはありますが、実際に参列して参加することは初めてでした。式典には、岸田内閣総理大臣や広島市長などの方々が参加し、平和宣言やあいさつを行っていました。その中で僕は広島市長のあいさつがとても心に響きました。なぜなら、今現在も続いているイスラエル、パレスチナの情勢の悪化について述べていたからです。広島市長の言葉がイスラエルとパレスチナの指導者に届いてほしいと思いました。広島市長の話を聞いて、核兵器の使用や戦争は絶対にしてはいけないと、改めて感じました。この式典で述べていたことが世界中の人たちに届いてほしいです。

二度と原爆が人を苦しめないよう、僕達自身が忘れずに周りの人たちに伝えて、原爆の恐ろしさ、残酷さを周知することが、今出来る、平和を守るための行動だと考えます。

わたしの主張 新潟市地区大会 奨励賞

8月7日(水)、黒崎市民会館にて「わたしの主張 新潟市地区大会」が開催されました。この大会は、多くの市民の皆さんに現代の中学生についての理解や関心を深めていただくために、日ごろ考えていることや体験したこと、そして地域社会との関わりから生まれる中学生らしい考えを発表する場です。

審査の結果、当校3年生のIさんとMさんが優秀な成績を収め、見事に選ばれました。そのうち岩野さんは、2年生のときの修学旅行の経験と今年起こった能登半島地震の経験から、避難することの大切さを主張しました。全文を掲載しますので、ぜひご覧ください。



命を守るために

三年 I

57パーセント。この数字は、東日本大震災ですぐに避難した人の割合です。あなたは、この数字を多いと思いましたか？ それとも、少ないと思いましたか？

私は、この数字が少ないと感じ、大変な危機感をもっています。実際、能登半島地震では、私の住んでいる地域も震度4を観測し、かなりの揺れを感じましたが、避難しない人がとても多かったように思います。「どうせいつも通り、たいしたことはないだろう。」「みんなも避難しないし…。」といった気持ちが私たちみんなの行動を鈍らせますが、本当に大丈夫なのでしょう。

私が、地震による避難の大切さを実感したのは、2年生の時にいった修学旅行の時です。震災学習で、津波の被害を伝える津波伝承館、気仙沼TSUNAMIメモリアルを見学しました。震災遺構を訪れて衝撃を受けました。建物の3階なのに、その高さまで流され、窓から飛び込んできた車。頑丈であるはずのコンクリートも削り取る勢いで破壊された建物。語り部の方たちのお話は本当に貴重で、普段のなにげない生活が一変する恐ろしさ、震災の迫力を肌で感じました。

東日本大震災や能登半島地震に限らず、人はいざという時になかなか逃げると判断ができません。なぜでしょう。調べたところ、「正常バイアス」と「多数派同調バイアス」が影響しているようです。正常バイアスは、異常事態に「こんなはずはない。これは正常なんだ」と自分の動揺を抑制しようとする心理状態。多数派同調バイアスとは、自分以外の人が多数いることでとりあえず周りに合わせようとする心理状態のことだそうです。人は、過去に経験したことのない出来事が突然身のまわりに起きた時、自分の気持ちを抑え、その周囲に存在する多数の人々の行動に合わせて避難を止めてしまうようです。結果、大きな被害を受け、たくさんの命がなくなってしまうことになるのです。どうしたら、その流れを阻止できるのでしょうか。

調べてみると、昔から適切な避難行動に結びつき、効果を発揮したものとして「言い伝え」が挙げられています。東北の三陸地方には、「津波でんでんこ」という言い伝えがあり、これを基にして近年、津波三原則が作られました。「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」が原則です。ハザードマップは過去の津波浸水域に基づいて作成されたもので、今度襲来する津波が大きければ、危険地域外でも安全とは言えないということ。「ここまで来れば大丈夫」ということはなく、その時にでき得る最善の行動をとること。いざという時にはまず自分が率先して避難をし、その姿を見せることで多くの人の避難を促し、多くの命を守ることを伝えていきます。東日本大震災では、この三原則を学び、守ってきた岩手県釜石市内の児童、生徒300人が、高齢者や小さな子どもたちを助けつつ、迅速に全力で避難をして、ほぼ全員が無事に避難しました。これは、「釜石の奇跡」として、語り継がれています。

一瞬先に世界が変わり、平和な日常が脅かされる震災。能登半島地震は1月1日に起こりました。内野の隣、坂井輪地区では、今もなお地震で波打った道路、傾いた家屋がたくさん見受けられます。私たちの生きているこの世界には明日の安全、穏やかな日常の保証はどこにもないのです。私は、常に危険を想定して、すぐに動けるよう心がけ、命を守る行動がとれるようしっかりと準備をしておく必要があると考えます。地震による津波を想定し、近くの高台や高い建物の屋上を確認する。防災グッズを用意する。学校や地域で行われる避難訓練に真剣に参加するなど、できることはたくさんあります。そして、修学旅行での学びを生かし、皆さんが耳を傾け、一緒に考えてくださる、貴重なこの発表の機会を通して、避難の大切さを訴えていきたいと思います。

令和6年度 関東合唱コンクール 結果

9月22日(日)に神奈川県横浜市で第79回関東合唱コンクールが行われました。8月に県大会が行われてから約1か月間、聴く人の心に届く合唱を心掛けながら練習を行う姿が見られました。関東大会では今までの練習の成果を出し切り、素晴らしい歌声を響かせました。

合唱部 金賞



靖子の部屋【全中編】も
放送中!

令和6年度 新潟市新人大会 結果

9月26日(木)に新潟市西地区の新人大会が行われました。3年生が引退し、1・2年生での新チームとなって初めての公式戦でした。勝ち負けに関わらず、ここまでの練習や結果から得たものがたくさんあったと思います。これから益々の活躍を期待しています。



陸上競技部 (東西総合順位)

<男子>

1500m 5位 3000m 6位

100m 7位 800m 6位

1年男子1500m 8位

4×100mリレー 7位

<女子>

800m 6位 棒高跳 1位

走幅跳 4位

サッカー部

1回戦 内野○7-0 白新・新潟柳

2回戦 内野○8-0 山 潟

男子ソフトテニス部

■団体戦

2回戦 内野 ○3-0 巻 西

準決勝 内野 ○2-1 NNクラブ

決勝 内野 ●1-2 巻 東

準優勝

女子ソフトテニス部

■団体戦

1回戦 内野○2-1 附属新潟

2回戦 内野●0-3 関屋

女子ソフトテニス 新潟UCHINOクラブ

■団体戦

優勝

野球部

1回戦 内野●3-7 NBCクラブ

2回戦 内野○4-2 小 新

柔道

<男子>

3回戦惜敗

男子バレーボールクラブ

内野○2-0 早通

内野●0-2 VC新潟東

リーグ2位

女子バレーボールクラブ

内野○25-9 寄 居

内野○25-13 巻 東

内野○25-18 小 針

内野○25-8 附属新潟

内野○25-16 坂井輪

内野●19-25 西 川

5勝1敗 リーク2位

男子バスケットボール部

1回戦 内野●11-28 黒 埼

2回戦 内野●21-28 白根第一

3回戦 内野●17-33 山 潟

女子バスケットボール部

1回戦 内野○20-10 白根第一

2回戦 内野●19-21 小 針

3回戦 内野○25-18 西 川

リーグ2位

男子卓球部

■団体戦

<予選L>

内野○3-1 上 山

内野○3-0 高志中等

内野●1-3 巻 西

予選リーグ2位通過

<決勝T>

1回戦 内野●1-3 小 針

女子卓球部

■団体戦

<予選L>

内野○3-1 臼井・巻西・巻東

内野●0-3 上 山

予選リーグ2位通過

<決勝T>

内野●1-3 潟 東

ベスト8

バドミントン部

■個人戦 (ダブルス)

ベスト8・ベスト16

■個人戦 (シングルス)

ベスト16

バドミントンクラブ

2回戦敗退

剣道部

■男子団体

<予選L>

1試合目 内野○3-2新潟第一

2試合目 内野○4-0鳥屋野

予選リーグ1位通過

<決勝T>

準々決勝 内野○4-0新津第二

準決勝 内野●2-2潟東(本数負け)

3位

■女子団体

<予選L>

1試合目 内野○1-1新誠館(本数勝ち)

2試合目 内野●0-3上 山

予選リーグ2位通過

<決勝T>

1回戦 内野●0-3大 形